

編集後記

◆ 日本で一番高い所にある地震計を見学するために、富士山測候所を訪れたことがあります。案内してくれた所員は、建物内の階段をトントンと上がった後に、評者の方を振り向いて、別に急いで上がってこなくても良いですよ、と言ってくれました。そうです。急いで動くと苦しいのです。そんな高所であるにも関わらず、地震計は、這ってしか進めない狭い床下に設置されていました。これからどんな記録をとってくれるのでしょうか。

◆ それに比べると、パソコン登山は、楽なことは楽です。作るほうは大変だったのですが、これで富士登山をする火山愛好者が増えるのでしょうか、それともパソコン操作だけで満足してしまう人が多くなるのでしょうか。筑波山にも登ったことのないような人が、初めて登る山が富士山であるなどということがあります。特異な山なのです。外国人登山者の占める割合も日本最高でしょうか。

◆ 岩手山を火山と思わない人がいるのと同様に、富士山でもその気があるようです。地元住民との話の中でも、富士山に登ったことのない人に直接会うことができました。噴火活動を理解するのはその次の段階であり、火山災害軽減に向けての取り組みがその先にあります。

◆ 机の上で、溶岩をトトロ流したり、火山灰を吹き飛ばしたりするのは、楽しい体験です。準備と後始末のことを考えなくても良いのなら、標本館では毎日やっても良いくらいです。準備段階で、溶岩の材料をチョコレートにして、実験が終わったあとに食べましょうやという食いしん坊の意見は、却下されてしまいました。

◆ 一般になじみの薄い地質図を、気軽に見てもらおうという点では、飛行機から見るタイプの映像製作は画期的です。これまた作る方は大変なのですが、今回は、まるでジェット戦闘機のように激しく飛ぶ遊園地方式は採用しませんでした。平和に穏やかに飛びます。さらに理解を深めてもらうのに、どのようにしたら良いのかは模索中です。地中に潜って探検する方式は、当然考えられてよい段階でしょう。

◆ 富士山のまわりでゴミの規制が厳しくなったら、よそを探して捨てるだけだよという声が樹海の影から聞こえてくるようです。どこかの段階で抜本的な解決策が提案されるのでしょうか。新しい施設の設置には規制が厳しいけれども、既存のものには甘いのではないかというねたみも出てきます。あの登山口での大音量のスピーカー、何とかならないのでしょうか。

◆ 先日当所で発売を開始した火山の絵葉書を見て、写真になった日本の火山16の名前を、裏面の説明を見ないですべて言い当てた方がいました。富士山のクイズの全問正解者はいたのでしょうか。作成者が知らなかったことも問題になっていますので、どうぞ御気楽に。

◆ 富士山特別展開催中の地質標本館の入場者数は、9,700人以上でした。このために作成したパンフレットは、別に行われた地質情報展と合わせて約4,800部、富士山の紙製立体地質模型は約7300枚がそれぞれ配布されました。皆さんどのように御感じでしょうか。機会があれば御感想を御聞きしたいものです。

(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂

副委員長：谷田部信郎

委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 029-861-3754
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第591号	2003年	11月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 〒実費		
	2003年11月1日 発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2003 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ